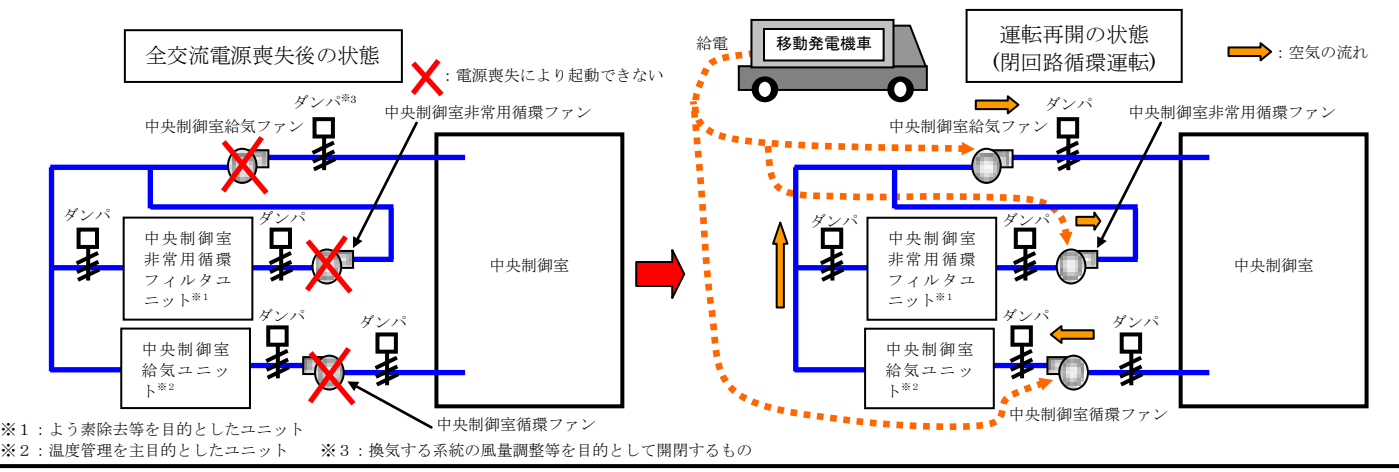


平成23年福島第一原子力発電所事故を踏まえたシビアアクシデントへの対応に関する措置に係る実施状況報告の概要 (1/2)

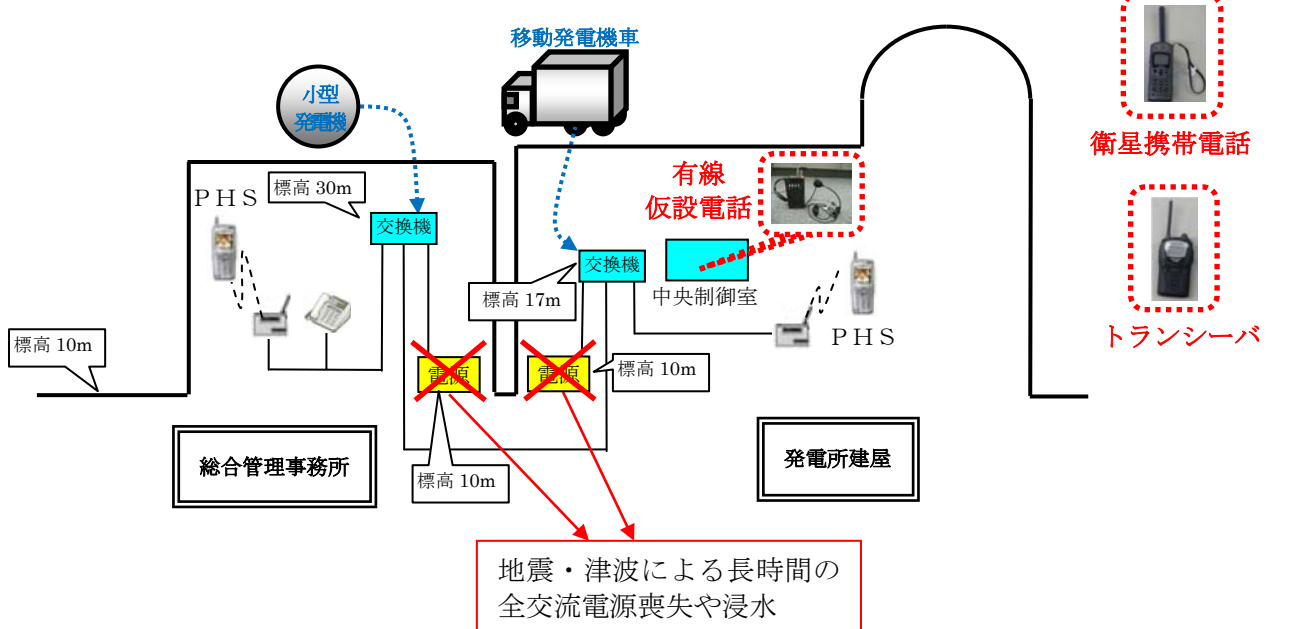
1. 中央制御室の作業環境の確保

○1次冷却材喪失事故時や中央制御室にて高放射線が検知された場合、中央制御室の空調は通常運転から閉回路循環運転に切り替わり、よう素除去フィルタが装着されたフィルタユニットを通すことにより空気が浄化されます。
 全交流電源喪失時には、中央制御室の空調が停止しますが、長期間の事故対応活動を継続的に実施するため、移動発電機車から中央制御室非常用循環ファン等へ給電するなどし、閉回路循環運転することにより空気を浄化し、中央制御室の居住性を維持できるように運転手順を整備しました。



2. 緊急時における発電所構内通信手段等の確保

○長時間の全交流電源喪失や津波による浸水があった場合、構内PHS電源装置は使用できなくなる可能性があります。構内PHS交換機は高所に設置しているため、構内PHS電源装置の代替措置を講じることで、構内PHSの機能を確保することができます。この代替措置として、既に配備済みの移動発電機車及び新たに配備する小型発電機による給電対策を実施しました。
 また、構内PHSの他の通信手段として、屋外用はトランシーバ及び衛星電話、屋内用は有線仮設電話（乾電池駆動）等を配備済みです。
 照明についてはハンドライト等を配備済みです。



平成23年福島第一原子力発電所事故を踏まえたシビアアクシデントへの対応に関する措置に係る実施状況報告の概要 (2/2)

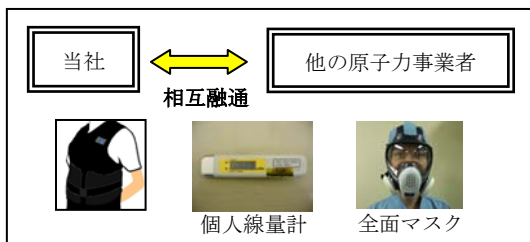
3. 高線量対応防護服等の資機材の確保及び放射線管理のための体制の整備

○事故時における高線量区域での作業のため、高線量対応防護服を配備します。(平成23年7月末までに完了予定)

- 名称：遮へいベスト
- 重量：18kg
- 遮へい能力：約20%

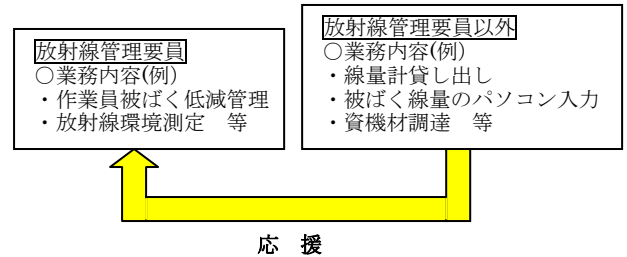


○高線量対応防護服、個人線量計及び全面マスクといった、現在、提供資機材リスト※4に定められていない資機材についても、必要に応じ原子力事業者間で相互に融通しあう枠組みを整備しました。



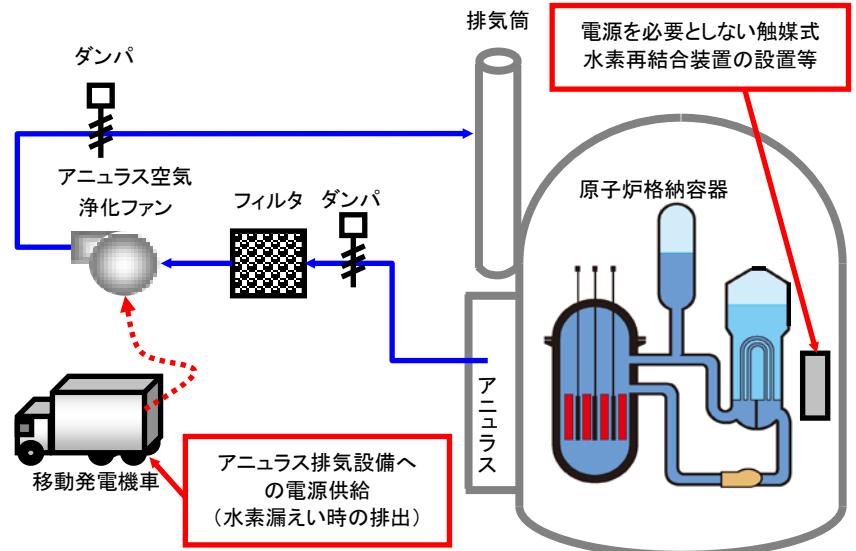
※4：原子力事業者が、緊急時における資機材の貸与や要員の派遣について協力することを目的に予め準備しておく貸与資機材のリスト（「原子力災害時における原子力事業者間協力協定」にて締結）

○緊急時においては、必要に応じて、放射線管理要員以外の要員が線量計の貸し出し、データ入力等の業務を行い、放射線管理要員を応援する体制を整備しました。



4. 水素爆発防止対策

○冷やす機能が喪失し、燃料集合体損傷に伴い発生した水素が格納容器から漏れ出した場合に、格納容器外で水素が多量に滞留することを防止するため、格納容器に隣接するアニュラス※5部に漏れいしてきた水素をアニュラス排気設備（フィルタを含む）により外部に放出する運転手順を整備しました。今後、更に、電源を必要としない触媒式水素再結合装置を格納容器内に設置するなどし、格納容器内の水素濃度の低減を図ることとします。(今後3年程度で設置予定)



※5：原子炉格納容器のまわりに設けられた空間で、事故時に負圧にして原子炉格納容器から漏れ出す放射性物質を閉じ込める機能を持たせている

5. がれき撤去用の重機の配備

○津波発生後、構内道路等に散乱するがれきを除去するため、4月20日にホイールローダー1台を発電所構内の津波の影響を受けない高所（標高31m）に配備しています。

【ホイールローダー】



- 仕様
- 全長 約6.8m
 - 全幅 約3.3m
 - 高さ 約3.4m
 - 重量 約10t
 - 最大けん引力 約7,200kg
 - 運転可能時間 約1.5時間
(燃料消費量 約14ℓ/h、燃料タンク容量 215ℓ)